

# 沖繩 — 島々の神 (1)

高橋 六一

## はじめに

神名はひとつの「文学」だ、と言ったのは高崎正秀である（「文学以前」）。この考え方からすると、沖繩の神々の名はどんな「文学」を内に包んでいるのだろうか。とりあえずは平成六年（一九九四）度に訪れた島々のうち、竹富島と久米島の整理・検討から始めることにする。神名と関連記事は『琉球国由来記』各処祭祀に、御嶽の読みがなは沖縄県教育委員会「御嶽」によった。

### 一、竹富島

#### 1、波座間御嶽

(竹富村)

神名、豊見ヲレ山

御イベ名、ハタト大アルジ

(屋久島ヨリ御渡。根原カミトノ、ヲガミ初ル)

#### 2、仲筋御嶽

(同村)

神名、宮鳥ヤ神山

御イベ名、イヘスシヤ

(ヲキナワガナシヨリ御渡。アラシハナカサナリ、オガミ初ル)

#### 3、幸本御嶽

(同村)

神名、国ノ根ノ神山

御イベ名、モチヤイ大アルジ

(久米島ヨリ御渡。幸本フシカワラ、オガミ初ル)

#### 4、久間原御嶽

(同村)

神名、東久間真神山

御イベ名、友利大アルジ

(ヲキナワガナシヨリ御渡。久間原ハツ、オガミ初ル)

5. 花城御嶽

(同村)

神名、豊見ハナサウ

御イベ名、イヘスシヤカワスシヤ

(ヲキナワガナシヨリ御渡。タカネトノ、オガミ初ル)

6. 波レ若御嶽

(同村)

神名、新カシノ神山

御イベ名、袖タレ大アルジ

(徳島ヨリ御渡。塩川トノ、オガミ初ル)

右六御嶽、立始ル由来ハ、昔、竹富島ニ、波座真村根原カミトノ、中筋村アラシハナカサナリ、幸本村幸本フシカワラ、久間原村久真原ハツ、花城村タカネトノ、波レ若村塩川トノトテ、時ニ村ノ酋長トシテ、六人心ヲ合セ、諸人ヲ愛シ居ケルガ、島ノタメ、作物ノタメ、守神拜ミタク、願居ケルニ、如レ願御神、国国島島ヨリ、御渡ノ託宣ニ、汝等念願、通達シテ、為レ島、為レ諸人、守神トシテ、彼島島ヨリ渡タル由也。

六人酋長始メ、村中ノ者共、謹而拜シ、則彼山山モ相拵、一御前ツ、勸請、拜ミ初メタルト也。

7. 国仲根所

(武富村)

神名ナシ

御イベナシ。ソノヒヤブノ御神、勸請也。

右根所ノ立始ル由来。昔当島へ、悪鬼納ガナシヨリ、御征伐ノ時、竹富島ニシタウト云者、召取ラレ、悪鬼納ガナシへ、罷登リケル。然処、彼ニシタウ、心能者ニテ、殊ニ利発ニ、アスタベ所ニ被<sub>レ</sub>召遣<sub>ニ</sub>、常々器量者ナレバ、奉公夜白不<sub>レ</sub>懈、数十年相勤ル。且、石匠ノ勝手ニテ、折節、ソノヒヤブノ、オガミノ、御門ノ、石工ツトメ、結構ニ出来ケリ。

其時、彼ノ、ニシタウ、念願ニ、此御門成就仕リ、存命ニテ帰島仕ル節モアラバ、此オガミノ御神ヲ、島ニテ崇メ、拜ミ可<sub>レ</sub>申ト、心中ニ念願アリ。

後二十五年経テ、御免許アリ。年来ノ為<sub>ニ</sub>勤功<sub>一</sub>、竹富ノ大首里大屋子役、頂戴仕リ、帰島ス。最前如<sub>ニ</sub>念願<sub>一</sub>、此国仲ニ拜所ヲ相求、御神ヲ勸請、正月朔日・十五日・冬至ニ、諸役人相集、悪鬼納ガナシノ奉為、次ニ万事島中ノタメ、立願為申所トテ、今迄拜所ニ、仕り来ル。何事モ、嶽々へ立願申、折節ハ、竹富村ハ、必此所ニ、悉皆相拵、拜始メテ、方々ノ御嶽へ、祈願仕ル佳例ニ、仕来ト伝来也。

八重山の御嶽は、『琉球国由来記』では神名と御イベ名を併記し、竹富島の場合にはさらに渡来先・初拜者の名を付記するのが特徴である。イベは沖縄ではイビ・ウブともいわれ、御嶽の最も神聖な所をさしたり、あるいは神名に付して用いられたりすることばである。竹富島のは聖地の名であろうが、1・3・4・6は「大アルジ」とあるところからすると、人名に関わる呼称のようである。2・5は5が2を

対句表現にしたものようで、家・川（泉）のスシヤということらしいが、スシヤがわからない。スジャーで筋ということだろうか。御イベ名と神名との関わりもわからない。いずれにしても神名が別にたてられているのだから、さしあたっては深入りしないでおく。

神名の呼称は二つの型に分けられる。一つは「——山（神山）」型であり、もう一つは5のように「山（神山）」を含まない型である。「山」は竹富島には自然地形としてそれほどの高所はないから、森クイなどと同じく聖地に対する接尾辞とみてよいだろう。「神山」ともいつているのがそのことを示している。1・5の「豊見」は『おもしろさうし』に頻出する「とよむ（響む）」と同じだろうから、名高いなどという賛辞とみてよいだろう。すると1の場合、神の本質を表しているのは「ヲレ」だということになる。しかしこれがどういう意味のことばなのかはわからない。「折れ」ではなく「降れ」だとすると、天下りする神だということは考えられる。

2は「宮鳥ヤ」に意味があるのだろうか、これもわからない。「鳥」は文字どおりに鳥なのだろうか。

3の場合はわかりやすい。要するに「国の根」、クニ（共同体）のもの神だというわけである。しかしこれは多分に抽象的な呼称である。

4の「東」は方角をさし、「久間」は地名であることはわかるが、「真」はなんであろうか。「久間真」なのか「真神」なのか。他の呼称からすると「久間真」らしいが、「久間」が地名以前にどんな意味だった

のかがわからないと、解決しない。

5は、神名に唯一「山」を含まない点で特異であり、御イベ名でも2としか共通性がないというありかたをしている。「豊見」はすでにみたが、「ハナサウ」とはどんな意味であろうか。「ハナ」は花なのだろうか。そうだとすると「サウ」がわからなくしている。

6は「カシ」が神格を表していると思われるが、これがまたわからない。

7は「神名ナシ」とあるが、「ソノヒヤブノ御神」を勧請したとあるから、首里の園比屋武御嶽の神、すなわちモジロキヨウニギリキヨウだということになる。しかしそれを明記せずに「神名ナシ」とするのが変わっている。

結局、竹富島の神は神名の表現からはその実質はほとんど不明である。ただわかるのは屋久島・ヲキナワガナシ・久米島・徳島（徳之島）からの、「御渡」の神だということだけである。その由来も「島ノタメ、作物ノタメ」の「守神」として渡島してきたというのだから、それぞれの神名にはこれに関わる意味内容が込められている部分があるのだろう。しかし個別の「御渡ノ託宣」がわからないかぎり、明らかにならないのかもしれない。

## 二、久米島

具志川間切

1、具志川城内御イベ

(具志川村)

一御前、神名、真玉森ソノヒヤク

神名、大森中森ノ目眉清良若司ガナシ

一御前、神名、サキマ森カナヒヤク

右三御前、六月、作物為、有「祈願」也。

一御前、神名、タツヒヤク

8、君南風殿内

2、具志川ノロ

火神名、キミハイワイノケヲノシユカアカゴチャヤガナシ

火神名、具志川ノカナフクノアカゴチャヤガナシ

9、仲地ノロ

火神名、ヨラブサノアカゴチャヤガナシ

3、大御嶽

(仲地村)

右二御前、二八月、百度御物參、有「祈願」也。

神名、ヲホキヤムノ大ツカサガナシ

10、俣枝ヲヒヤ

4、小御嶽

火神名、ヲシタテノアカゴチャヤガナシ

神名、小森ノスデヅカサワカツカサガナシ

右、為「作物」、二八月、有「祈願」也。

右六御前、二八月、百度御物參、有「祈願」也。

5、玉那覇御嶽

11、上江洲御嶽

神名、コシヤテ森大ツカサ若ツカサガナシ

神名、アツミナコシヤテ森イツノイベガナシ

12、富祖古御嶽

神名、ソノキヤジノ大ツカサ若ツカサガナシ

6、シユケツ御嶽

神名、トンナエタケキヨライツノイベガナシ

13、シラシ御嶽

神名、ヨキノタケ大ツカサ若ツカサガナシ

7、シライミ御嶽

(西目村)

右、三御前、二八月、百度御物参、有<sub>レ</sub>之也。

14、ヲル、御嶽

神名、セノク森ヲモヒ君ガナシ

右、二八月、作物為、有<sub>二</sub>祈願<sub>一</sub>也。

15、西目ノロ

火神名、ヲシワキノアカゴチャガナシ

右、二八月、百度御物参、有<sub>レ</sub>之也。

16、西目ヲヒヤ

火神名、ヲモヤケノアカゴチャガナシ

17、西平ヲヒヤ

火神名、クミヤシ森アカゴチャガナシ

18、新垣ヲヒヤ

火神名、ミヤカノ森アカゴチャガナシ

右参御前、二八月、為<sub>二</sub>作物<sub>一</sub> 有<sub>二</sub>祈願<sub>一</sub>也。

19、兼城御嶽

一御前、神名、クロマンノイベ

一御前、神名、カネマンノイベ

右、二八月、百度御物参、有<sub>レ</sub>之也。

20、知仁御嶽

神名、ソク森 ツカサステヅカサガナシ

右、二八月、為<sub>二</sub>作物<sub>一</sub>、有<sub>二</sub>祈願<sub>一</sub>也。

21、兼城ノロ

火神名、ヲヤノロノアカゴチャガナシ

22、兼城ヲヒヤ

火神名、コンチャネノアカゴチャガナシ

右二〔御前〕二八月、百度御物参、有<sub>レ</sub>之也。

23、比嘉御嶽

神名、アラヤケノアシカサガナシ

24、山城ノロ

火神名、ヨキラヘノアカゴチャガナシ

25、山城ヲヒヤ

火神名、森城キンチヨウキミアカゴチャガナシ

(兼城村)

(山城村)

26、久根城ヲヒヤ

火神名、シノキミアカゴチャガナシ

右三御前、二八月、百度御物参、有<sub>レ</sub>之也。

久米仲里間切

1、イシキナハ御嶽

一御前、神名、久米ノ世ノ主御イベ

一御前、神名、アフライサスカサ御イベ

一御前、神名、トヨムスノキミ御イベ

由来。古、イシキナハ按司ト云フ人ノ亡靈ヲ、崇敬仕タルトナリ（下略）。

（儀間村）

一御前、神名、イツミジユキ御イベ

一御前、神名、アサカワ御イベ

一御前、神名、テダ始メ御イベ

由来。往古城主、久米中城按司ト云フ人ノ、亡靈ヲ崇敬ノ由也（下略）。

4、屋慶名御嶽

神名、キミヨシ御イベ

5、ケツマ御嶽

神名、アフライサスカサ御イベ

6、上アミフシ御嶽

神名、目眉清良御イベ

7、下アミフシ御嶽

神名、若ツカサ御イベ

8、ヲベイ御嶽

一御前、神名、オトチキヨ御イベ

一御前、神名、アフライサスカサ御イベ

（宇江城村）

2、平松御嶽

一御前、神名、若ツカサ御イベ

一御前、神名、イベトノ御イベ

3、仲里城御嶽

一御前、神名、大ナチャ御イベ

一御前、神名、アフライサスカサ御イベ

一御前、神名、ヲモヒキミ御イベ

9、比嘉御嶽

（島尻村）

一御前、神名、大ツカサ御イベ  
一御前、神名、シキライ大ノ口御イベ

10、黒洲御嶽

神名、アフライサスカ〔サ〕御イベ

11、トンナハ御嶽

神名、大ツカサ御イベ

由来。往古、ガサス若チャラト云フ人ノ、亡霊ヲ、崇敬ノ由也〔下略〕。

12、世野久瀬御嶽

神名、若ツカサ御イベ

13、ヲレ御嶽

神名、アシタカ御イベ

14、トマリ原御嶽

一御前、神名、ヲソヒヤノ御イベ

一御前、神名、タンチャクノ御イベ

一御前、神名、メンナカノ御イベ

15、黒石御嶽

神名、ヨタマシ御イベ

16、久米原御嶽

神名、若ツカサ御イベ

17、十三里御嶽

神名、若ツカサ御イベ

18、名幸御嶽

一御前、神名、若ツカサ御イベ

一御前、神名、トエダ御イベ

久米島は間切が二つに分かれており、現在も具志川村と仲里村とから成っている。神名は御嶽のほかに、城内御イベやノロ（祝女）・ヲヒヤ（男の神職）のものにも及んで列挙されている。その記載法は、二神以上の場合は「一御前」という数え方をしており、ヤマトの神道の場合に似ている。また具志川間切には対句表現がよく見られ、「ガナシ」という尊称の接尾語が多用され、火神名には「アカゴチャガナシ」が必ず付いている。「アカゴチャ」は「赤口」であろうか。いっぽう久米仲里間切には末尾に「御イベ」を付して統一し、同一神名が頻出しているのが特徴である。一つの島で二つの間切が異なる神名の扱い方をしているというのは、それぞれ異なる歴史や宗教観を持って

（真謝村）

（比嘉村）

いたのだろうか。

具志川1の三神名は「真玉森」「サキマ森」が対で、森（聖地）が讚美されている。また「ソノヒヤク」「カナヒヤク」「タツヒヤク」がそれぞれ対となっている。「ソノ」「カナ」「タツ」がそれぞれに「ヒヤク」を修飾しているわけだが、語意はわからない。しかし森をいつて神の所在を明示しているのは確かだろう。

2・8↖10・15↖18・21・22・24↖26の火神名は、8の「キミハイワイノケヲノシユ」は「君南風の京の主」で君南風（神女名）、21の「ヲヤノロ」が親ノロで、その火神を祀る神女を明らかにしている。その外の「カナフク」「ヨラブサ」などは地名なのか人名なのか、あるいは家名なのか不明である。17・18は「森」とあるから祀られる聖地をさしているのだろうか。25・26「キミ」とあるからやはり神女名なのかもしれない。すると他も神女名だろうか。

3・4・7・11↖13・20には「ツカサ」とあり、14の「君」も含めて神女名をさしている。23もそうだろう。5・6はその神の所在する聖地・イベを示して神を讚称している。イツが稜威の意だとすると意外なことだ。

久米仲里1の「久米ノ世ノ主」はイシキナハ按司をさす。つまりその「亡霊」を神として祀っているわけである。「アフライサスカサ」は神女名だろうが、3・5・8・10にも祀られている。こうしたあり方は「若ツカサ」が2・7・12・16↖18に、「大ツカサ」が9・11にみられる。その他に1の「トヨムスノキミ」、3の「ヲモヒキミ」、4

の「キミヨシ」、6の「目眉清良」、8の「オトチキヨ」、9の「シキライ大ノロ」、14の「ヲソヒヤ」なども明らかに人名・神女名であり、残りにもこれに入るものは多いだろう。「由来」がすべて「亡霊」を神として祀るとしているのが、この島の神名の内容を指示しているのだろう。

中で注目されるのが3の「テダ始メ」である。「由来」の亡霊は最初の「大ナチャ」であろうから、するとこの「テダ始メ」はどうなるのだろうか。いずれにしても他とは異質の神名が初めて見られたわけである。考察は後日を期したい。

（未完）

\*平成六年度跡見学園特別研究助成費による成果の一部である。